

ひまわり メッセージ

7号

2011.10.11

西濃園域
発達支援センター
ひまわり

発行人：中野み子

母の思い



愛したるより愛されしこと多く思い出されて

盆ゆかんとす

この短歌は、九月二十五日に中津川市で行われた中日歌人会の短歌大会に出詠された作品で、作者は医療禍で寝たきりになってしまった息子さんを、長年にわたって看護しつづけ、昨年、『天の梯子』^{はとこ}という歌集を出された楢垣道子さんである。

私は選者の末席にあって、この作品をとらせていただいた。「愛」ということばは、大上段に言われると、薄っぺらに思えることも多いが、作者を知らば「愛」ということばに含まれた深い思いが胸に迫ってくる。医療禍の息子息は三年前に

亡くなり、楢垣さんの二十二年八月に及ぶ看護の日々は終わりを告げたが、母の思いは永遠であろう。

医療事故で寝たきりになった息子を慈しみ愛しつづけた楢垣さんをして、愛したことより愛されたことの方が多かったと言わしめるのは、感謝の思いであろうか。自分を支えてくれた多くの人々がいたこと、そして自分が愛しつづけてきたと思っていた息子さんから実は愛されていたのではないか……お盆は亡き人に思いを寄せる日でもある。

支援センターでかわるお母さん方は、我が子が発達障がいとわかった時、どんな思いでいらっやっただろうか……自分は一人ぼっちだと思われたかもしれない。言い表しようのない深い淵に落とされるような思いをもたれたかもしれない。しかし、お子さんが命を授かったということ、そして、そのお子さんの命もお母さん方も、目に見えないけれども多くの人の支えがあって、今、ここに在るといふことに気づいてほしいと私は思っている。そして一人でも多くの人が発達障がいを理解し、子どもたちの、困り感を knowingて手を携えていってほしいと願っている。もちろん、私もその一人でいたいのである。

読み書きが苦手



読み書きが苦手という場合、お母さんたちはどんなことに気づかれるでしょうか？ 次のようなことが多いですね。

- ・読みまちがいが多い。
- ・拾い読みであり、時間がかかる。
- ・読んだ内容がわかっていない。
- ・本を読もうとしない。
- ・鏡文字を書く
- ・促音の「っ」や撥音「ん」の書きまちがいが多い。
- ・漢字が書けない。
- ・助詞をよくまちがえる。
- ・作文が書けない。

そして、子どもたちの努力が足りない、もっとがんばらせるところにはどうしたらいいか……と思われることが多いように思

います。けれど、実は読み書きが苦手であることと背景には、いろいろなことが考えられるのです。

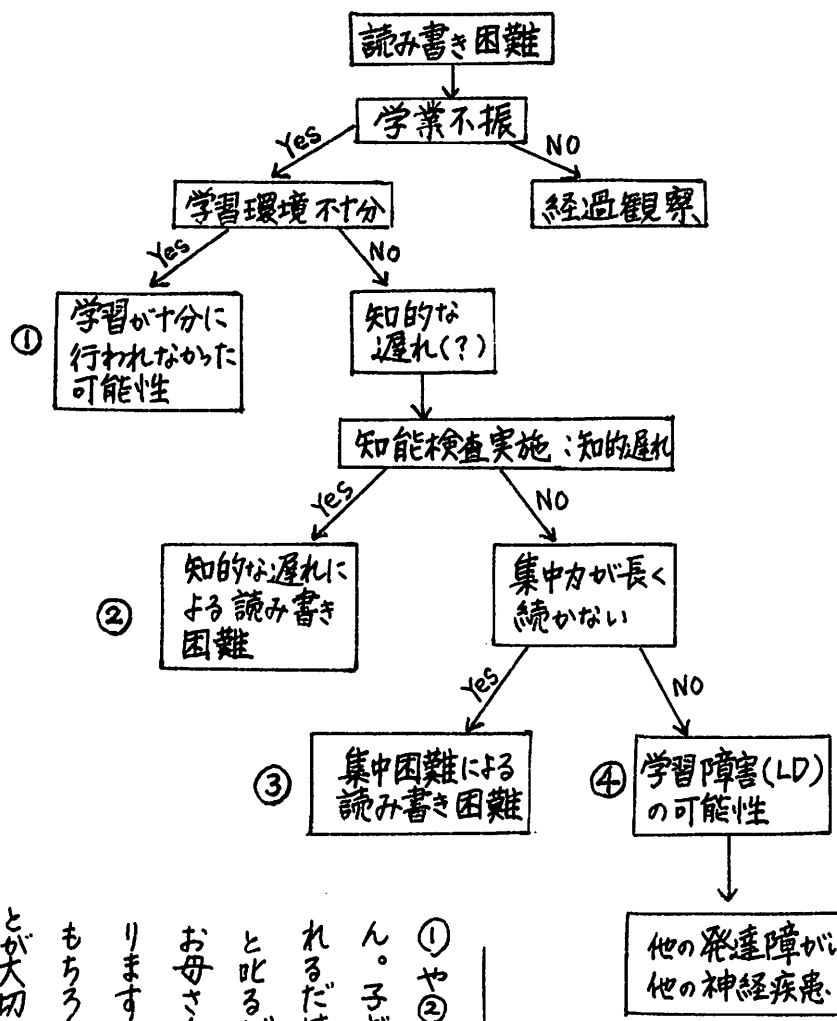
では、お子さんの苦手について、ちょっと考えてみましょう。

- ・どのように、いつから苦手なのか？
- ・読むことと書くことと、どちらが苦手なのか？
- ・平がなと漢字とはどちらが苦手か？
- ・目で見て正しく書き写すこととはできるか？
- ・耳で聞いたことを書くことはできるか？
- ・耳で聞いて理解することができるか？
- ・会話する力は？
- ・集中力は？
- ・これまでどの様に学習してきた？

こうして具体的にお子さんの状態を見直してみると、意外に分かっていないことも多いのではないでしょう。いつから苦手だったかな？、幼児期もなかなか絵本に興味をもたなかったとか、自分で勝手にしゃべっていたとか、園の先生から話を聞いていないと言われたとか……。そんなことも

あった気がするというのが、小学生の子をもつお母さんの実感かもしれません。

学校では読み書きが苦手な子の対応方法を探るために次のような分析をしていくことが多いと思います。



①や②の場合は、家庭学習の見直しも必要かもしれません。子どもは、お母さんがそばにいて励ましたりほめてくれるだけでも、やる気になります。「何故できないの？」と叱るだけでは、子どもは益々自信をなくしてしまいます。お母さんの「ことば」は暴力にもなるし、ごほうびにもなります。

もちろん②の場合、特別支援学級で個別に教えてもらうことが大切です。鏡文字は五歳児に多く見られますが、文字

※ベースに発達障がいがある場合には、各々のお子さんの発達特性、情報処理の仕方なども知っておく必要があります。

WISCによる検査、ITPAやK-ABCなどお子さんを知る手がかりとなります。

知能検査は、就学指導の数値を知るためのものではありません。就学後の学習の手だてを探るものとしても利用してほしいと思います。

ちなみに知能検査には、ビネー検査、ウエクスラー検査(学齢はWISC)があります。

学習の前に、よく似た形の記号の異同弁別や、文字のマッチングなど、遊びとしてやってみることもできますね。

③の場合、医療の助けも借りて、薬による療法も集中力を高めることに役立ちます。特に低学年の場合は効果が期待できるようです。しかし、服薬すればいいのではなく、それまでの生活の中で学習の習慣がついていないことも多いでしょう。どの程度集中中できるのか、長い文章を読ませるよりも一文ずつ短冊にしておくとか、漢字ドリルもコピーして一枚を何枚かに分けておくとか、ゴールが見えやすくする工夫もするといいでしょう。

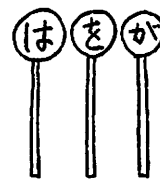
④の学習障害(ＬＲ)と考えられる場合は、少し専門的な知識が必要となります。

例えば、書くのが苦手な場合、姿勢保持がうまくできないとか体の緊張の問題などがあれば、まずその点などのように解決していくかというようになります。座位保持のためにムービングクッション(市販)を用いたり、鉛筆の正しい持ち方のために、フニクリップなどもあります。斜面台を利用すると見やすくなって助かる子もいるでしょう。

書字の場合は、以前にも書きましたが、両眼の動きや焦点

の合わせ方など、眼球のコントロールと関連していることも多いので、専門家の意見を聞いたり、トレーニンングをすることも必要になるかもしれません。

文章の中で助詞の使い方が正しくできない場合、箸や竹串に助詞カードをつけたものを作っておいてそれをいくつか置きかえてみたりしながら助詞さがしをしていく方法もあるでしょう。



読むのが苦手な文のどこを区切って読めばいいのか分からない場合は、切る箇所には「スラッシュ」を入れてあげるのもいいでしょうし、漢字では、その漢字の成立ちを知らせて意味づけることで学びやすくなる子もいるでしょう。

いおれにしても、教育のフロである学校の先生方と一緒に子どもを育てていくことが大切です。そして先生方も私たちも一面的にみていくのではなく、子どもの困り感に対して多面的に考え、方策を探っていくことが課せられた課題となるでしょう。思考の柔軟性が私たちには必要不可欠だと思っております。

SST

(社会的スキル訓練)って何？



子どものSSTが始まって三十年、最近特にSSTという言葉を聞く機会がふえました。

古くからSSTの対象だった引込み思案の子、攻撃的な子、知的障がいの子に加えて、最近では抑うつ的な子、社会不安障がいや発達障がいの子たちが対象となっています。いずれも社会的スキルが十分に身につかず、現在も将来にわたっても社会的不適応が心配される子どもたちです。

SSTには様々な訓練法があり、個別、小集団、小学校の学級における方法などが考えられますが、私はその前にちょっと辛口発言をしたと思います。

さて、お母さん方はひまわり学園の園舎を通過してセンター親の会に参加されますが、廊下で出会った人に挨拶をされていますか？、朝起きた時、家族に「おはよう」と言われますか？、ご主人が何かして下さった時、子どもが何かしてくれた時「ありがとう」と言っていますか？、自分が失敗した

時には素直に「ごめんさい」が言えますか？、

子どもたちの社会生活のスタートは、まず家庭生活です。そんなこと先生に言われなくなったら、ちゃんとやっていますとお叱りを受けそうですよね。

では、食事は皆が揃ってできますか？、大人の都合で子どもの睡眠時間が変わっていませんか？、お子さんの言いなりになって何でも要求を通していませんか？、お子さんが泣いたり大声を出せば、最初は「ダメよ」と言っていたのに最終的に子どもの思いが通ってしまうのではありませんか？、学校の授業参観に行くと、久しぶりに会った同級生のお母さんとおしゃべりがすすんでいませんか？、

ここまで書いてきて、親の会に出てきて下さるお母さんたちの顔が一人も浮かんでこないことに気がきました。けれども、私が書いたような家庭やお母さんたちは最近ふえてきているように思うのです。SSTはもちろん子どもたち側に何らかの理由があるわけですが、近年、これほどSSTが言われるようになった背景には子どもを取り巻く環境の変化もあるように思えるのです。

そして最近の相談では、学校では良い子なのに家で暴れたり、家ではしゃべりなかつたり、家庭でどうしたらいいのかという相談もふえました。学校で緊張してがんばってきた分、家で自分の思い通りにしたい、自分の主張を通そうということでしょう。学校に相談しても「学校では問題はありませんから……」と言われるということですが、これがエスカレートしていったら大変なことになるでしょう。

社会的スキルというのは、一方だけが一方的に利益を得るということではありません。対人関係の原則は、やりとりをする者同士がお互いに適切に折り合いをつけるためのスキルを身につけていくということなのです。

家庭の中でも学校でもやっていいことと、やってはいけないことをしっかり教えていく必要があります。大人が力で押さえつけても解決にはならないし、大人が何でも子どもの要求通りに許していくことも、社会適応を妨げていくことになりません。

幼い子どもの場合には、いつかは分かるから……と子どもの要求通りにすることが、家庭でも園でもまだまだ多い

ようです。反省すべきことでしょう。

自分の思いをことばで伝えられること、そして相手の思いを聞く力を身につけること、そしてお互いの思いをどのようにつなげていったらいいのかを学ぶこと、こんな基本的なことが大人社会でも失われつつある現代、子育てに悩むお母さんたちは、ほめるのも中途半端、叱るのも中途半端になってはいないでしょうか？「ダメ!!」は連発されるけれども、「やっても良い方法、スキル」を教えてもらえない子どもたちが多すぎる気がします。

SSTの基本的部分は、やはり家庭にあると思えて仕方がないのです。家庭の中で培われた力が子ども集団の中での学びにつながっていくってほしいと思うのです。

◎お知らせとお詫び

・センターに電話を下さっても留守のことが多くご迷惑をおかけしています。緊急の場合は、その旨伝言して下さい。比較的つながるのは八時～八時四十分頃までです。

・十一月の親の会は八日です。

